

平成30年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

全頭自家生産による安定した肉用牛一貫経営と地域とのつながり

○氏名又は名称 峯村 誠太郎、峯村 伊世

○所在地 長野県東御市

○出品財 経営（肉用牛一貫）

○受賞理由

・地域の概要

東御市は、長野県の東部に位置し、平均気温が11.7℃、降水量803mmと雨が少なく、巨峰、クルミなどが特産品である。市内の総農家戸数は約2.4千戸で、このうち肉用牛4戸、酪農8戸である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

峯村誠太郎氏は、平成13年に就農し、平成23年に経営移譲された。平成24年には牧場内に精肉と加工品の直営店を開設し、平成28年に農場HACCPの認証を取得した。現在、黒毛和種肥育牛160頭、繁殖雌牛80頭を飼育し、自給飼料畑は5haであり、所得率は27%と良好な経営状態である。

・受賞者の特色

(1) 全頭自家生産による繁殖・肥育一貫経営

- ①飼育牛は全て自家生産である。伊世氏を中心に1日4回の見回りを実施し、疾病の早期発見早期対応により子牛の損耗はない。繁殖牛は傾斜地を利用した広い運動場で飼養され、これにより足腰が鍛えられるため、平均分娩間隔は12.1ヵ月、子牛生産率は94%とほぼ年1産を達成し、分娩事故もない。
- ②近隣農家から収集した良質な稲わらをふんだんに使い飼育牛の体調管理に努めている。堆肥は良質であり近隣農家からの評価は高い。地元耕作農家との連携が図られており、地域農業の一体感がうかがえる。

(2) 農場 HACCP 認証の取得

平成28年に農場HACCPの認証を取得した。従業員の飼養管理に関する意識向上や技術改善、販売品の付加価値向上につながった。

(3) 女性の活躍

峯村氏の母は、「長野県畜産女性ネットワーク委員会」の委員長を務め、農家民泊の登録もしている。また、峯村氏の妹は、これまで子供たちへの食育や農業体験を行ってきており、現在は伊世氏が引き継ぎ活躍している。

・普及性と今後の発展方向

近隣農家からの良質稲わらの利用や良質堆肥の生産による耕畜連携の実践、食育活動等の実施など、峯村夫婦の経営活動の普及性は非常に高い。また、本経営について若者に伝授したいと述べ、更なる発展が期待できる。